

パーフェクトポート

海とボート&ヨットのスタイルマガジン

Perfect BOAT & YACHT

YACHT

CAR

TRAVEL

WATCH

FASHION

CUISINE

LIFESTYLE

CRANCHI SESSANTADUE 62

4

APR 2025



AXOPAR 29 XC Cross Cabin / Barcelona / Marina Guide / solasio Style / ROLLS-ROYCE Ghost Series II



———— SPECIAL ————

NEW ELEGANCE

CRANCHI SESSANTADUE 62



2025年1月18日ドイツ、デュッセルドルフボートショーにて、昨年2024年9月のCannes Yachting Festivalでデビューした「CRANCHI(克蘭キ)」のニューモデル「Sessantadue 62 (セッサントドゥエ62)」が、European Powerboat of the Yearを受賞した。この賞は欧州のボート専門誌9誌の編集長らによって選ばれるもの。今年さっそく最大の名誉を与えられた新たなフライブリッジ艇「CRANCHI Sessantadue 62」、話題のそのフォルムやインテリアを見てみよう。

text: Kenji Yamazaki photo: CRANCHI YACHTS
special thanks: RIVIERA RESORT www.riviera.co.jp/marina/



垂直システムに始まるこのフォルム、デッキとフライブリッジの調和のとれた斬新なフォルムを見せる。フライブリッジのTトップはカーボンコンポジット。現代的なクリスタルなカラーリングは「オーロラグレー」と呼ばれるあでやかなメタリック塗装。

155年の歴史、宝石のようなコモ湖生まれ、European Powerboat of the Year 2025 の栄誉デザイナー Christian Grande が魅せる ノーブルなエレガンスに包み込まれる

フラッグシップコレクションにふさわしいたたずまいを見せる「CRANCHI Sessantadue 62 (克蘭キ・セッサンタドゥエ 62)」。今年2025年1月のboot Düsseldorf デュッセルドルフボートショー、欧州のボート専門9誌の編集長らによって選ばれる European Powerboat Award で、24m 以内カテゴリーの European Powerboat of the Year 2025 の栄誉に輝いた。

*

「CRANCHI (克蘭キ)」で初の試みとなる垂直システム、バーチカルバウ、アートディレクター Christian Grande の主張でもある。エッジの効

いたクリスタルなフォルムで佇んでいる姿を想像する。あでやかな外装色に目を奪われる。薄紫の「Grigio Aurora (= オーロラグレー)」と呼ばれる船体の先端的なメタリック塗装と、舷窓やサイドウィンドウのブラックが実にクールなインパクトを与えている。フライブリッジのTトップはカーボンコンポジット、バーチカルバ

ウから流れるシャープな直線基調のフォルムは奇才 Christian Grande。Settantotto78、Sessantasette67で導入した新しいスタイリングを更に進化させた。モダンで上品なエレガンスが漂うそのフォルム、ハル設計の Aldo Cranchi をリーダーとする インハウスデザイン Centro Studi Ricerche Cranchi とのリレーションだ。

見上げてみる。船体のこの煌びやかな塗装は、その刺激をボルシェの BEV 車タイカンからインスパイアされたと。現代、今を表すカラーリングの妙に魅かれる。乗り込もう。スイミングプラットフォーム、その中央はシートイガレージ。WILLIAMS Turbojet 285 と SEABOB を収納可能なテンドーガレージがある。左舷のステップを跳ね上げるとクルールームへのアプローチが現れる。



チーク張りのイーブスの内側のルーフ、スイミングプラットフォーム、コクピットのフロアもちろんチーク。チークテーブルとファブリックソファ、クラシカルな趣のチークがアフトデッキを包み込む。

右舷ウッドステップからアフトコクピットへ。両舷ブルワークにガンネルドアが用意される。離岸時の安心設備だ。サードヘルムも潜んでいる。ふと気付く、フライブリッジのイーブスの内側のルーフ、チーク張りなのだ。スイミングプラットフォーム、コクピットのフロアもちろんチーク。チークテーブルとファブリックのラウンジソファ、クラシカルな趣のチークがアフトデッキを包み込む。

その流れはサロンに入るとまず展開するダイニングエリアのルーフまで広がり、ダイニングはチークに包まれる。右舷サイドにギャレー、パネルは細木にしたチークの3Dクラッディング材で構成されている。ルーフにはシンボリックな3個の丸いライト、中央に円卓のダイニングテーブル、6人分のチェアが取り囲む。

その先は優雅なラウンジゾーン。フロアは1段上がって絨毯に変わり、ルーフはラインライティング。左舷に緩やかに湾曲した明るい色のふくよかで柔らかなL字のソファ。エレガントな趣を漂わせるラウンジが広がる。右舷にはワインクーラー、カトラリーが潜むキャビネット。その先に対面するコーナーソファ、背後にTVモニターも潜んでいる。ヘルムとの境を飾るアートフルなパーティション、ルーミーなウィンドウ。フロントウィンドウは広大な1枚ガラス、採光の豊かさが作り出す空間に明るく爽やかでラグジュアリーが潜むエレガントな内装が心地よい。その設えのふとした意匠に Christian Grande の研ぎ澄まされたアートフルな感性が漂うようだ。







チークフロアにゆったりたっぶりのラウンジソファが左舷からセンター、さらに後方へ広がるフライブリッジ。中央にラウンジエリア、その右舷にはBBQグリル、ウェットバー、シンク、冷蔵庫、TVモニターまでが潜むキャビネットが置かれている。カーボンコンボジットのTトップはルーバー開閉式のサンルーフ、右舷前方には2脚のシートにメインヘルム同様のヘルムステーションが用意される。コンパクトなシャワーもデッキ後端に用意される。



サロン右舷前方にヘルムステーションがある。2脚のスポーティなキャプテンシートに右に右舷デッキへのパンタグラフドアが用意される。中央のシートの前に美しいウッドグリップのステアリングホイール。コンソールにはGARMINのマルチファンクションディスプレイが2面位置している。GARMINのパーキングシステム、ジョイスティックとサラウンドビューカメラで離接岸は容易。クルマのように視認化されたパーキングシステムが装備される。その前にバウスラスタースティック、手前にアクティブHUMPHREEトリム&スタビライザーのコントローラー、VOLVO PENTA D13 - IPS1350 (1,000hp) ×2基のコントローラー、SEAKEEPER ジャイロ

スタビライザー、オートクルーズ等最新の航海計器が並ぶ。HPウォーターメーカーが搭載されているのも嬉しい仕様だ。

ソフトなライティングに導かれながらコンパニオンウェイを降りて3ステートのロアデッキへ。まっすぐバウに向かうとVバースのVIPルームに。両舷の採光豊かな2面のシービューウィンドウ、柔らかなルーミーな空間がウォールのウッドとコクーンベッドを包み込む。専用のパウダールームも清廉そのもの。広々としたシーサイドピラの趣だ。バーチカルバウの恩恵は十分なスペースの確保にも繋がる。VIPルーム手前に同じ趣を漂わせるツインベッドのゲストルームがある。ミジップにはオーナーズスイートが待

ち構えている。まるでコクーンのようにベッドを囲むヘッドボードとウォールの装飾ウッド、クラディングの3Dウォールパネルがもたらす柔らかなムードな空間が広がる。広々としたシービューウィンドウ、ウォークインクローゼット、ツインシンクにレインシャワーのパウダールーム。静かな時間が流れていくようだ。ロングレンジのクルージングに出かけたい。

*

フライブリッジへはアフトコクピット右舷サイドからウッドラダーで。一面のチークフロアにゆったりたっぶりのラウンジソファが左舷からセンター、さらに後方へ広がる。後方はサンベッドを兼ねる設えだ。コンパクトなシャ

ワーもデッキ後端に潜んでいる。Tトップの拡張するサンシェード、ルーバー開閉式サンルーフ、中央のラウンジエリアにはダブルサイズのチークテーブルが用意される。その右舷にはBBQグリル、ウェットバー、シンク、冷蔵庫、さらにTVモニターまで潜むフルサイズのキャビネットが置かれている。

右舷前方には2脚のスケルトンなバケットシートにメインヘルム同様の航海計器の並ぶフルサイズのヘルムステーションが用意される。ヘルムに座るとバウに広がるオープンラウンジが見下ろせる。このパウラウンジはカーボンファイバー製のビミニオーニングが広がり、その下にサンタンベッド、ラウンジソファ、フリーザーキャビネットが用意され、夜にはポップアップ





まるでコクーンのようにベッドを囲むヘッドボードとウォールの装飾ウッド、3Dウォールパネルのクラッディングがもたらす柔らかなムードな空間が広がる。広々としたシービューウィンドウ、ラウングインクローゼット、ツインシンクにレインシャワーのパウダールーム。静かな時間が流れていく。



ランタンが灯りをとます。どこを見てもあでやかでモダンな、「今、これなのだ」のたたずまいを見せる。ポートライフの近未来スタイルが見えるようだ。

Christian Grandeは語る。「多くの人にアピールするスタイルの要素を選択すること。デッキとフライブリッジの調和のとれたフォルム。直線的なデザインには、いくつかのディテールが主張します。心がけたのは、伝統とモダンの融合、心地よさ、細部へのこだわり。ハンドル、トリム、クッション、伝統に依拠するチーク材の見直し、グログラン生地を採用、現代的な色の選択。穏やかにロングタームでポートライフを楽しむための心地よい空間作りです。現代性と豪華さを見出すデザインを生かすことなのです」とメッセージする。

そのパフォーマンス資料を検証してみる。全長 20.23m、全幅 5.16m、ドラフト 1.60m。搭載ユニット VOLVO PENTA D13 - IPS1350 (1,000hp) × 2 基、1,900rpm クルージング速度 19 ノット、燃料消費量 233L/h、レンジ 216nm、2,350rpm トップスピード 29 ノット、388L/h、197nm。SEAKEEPER ジャイロスタビライザー搭載。

*

CRANCHI の歴史は古く、誕生のその地も歴史の趣を持つ。その創立はまだ自動車も生まれていない 1870 年のこと。155 年もの歴史を誇るビルダーだ。美神の王国イタリア、その美とモードの中心ミラノの北、湖水地方の中でも宝石のような湖と呼ばれるコモ湖の中部に CRANCHI 生誕の地がある、Bellagio だ。貴族たちに愛されたこの地は、現在でも世界のセレブリティやディレタントがビラを構える究極のリゾート地。Giovanni Cranchi の創設以来 5 世代に亘ってボート造りにいそしんできた「Cantiere Nautico CRANCHI」は、2000 年にはコモ湖北東部の Piantedo にファクトリーを、ヴェネチア東部のアドリア海 Nogaro にテストセンターを設立し発展を続けている。日本ではリビエラ逗子マリーナとリビエラシーボニアマリーナを運営する「リビエラリゾート」が 2015 年にインポートを開始。誕生の地から受け継ぐノブールさとエレガンスを漂わせる CRANCHI、その未来を見せるのは間違いなくこの、Christian Grande の「Sessantadue 62」だ。**P.B.**

CRANCHI Sessantadue 62

全長 20.23 m
全幅 5.16 m
重量 38.00 ton
エンジン 2× VOLVO PENTA D13 IPS1350
最高出力 2× 1,000 HP
燃料タンク 3,300 L
清水タンク 700 L
問い合わせ先 リビエラリゾート リビエラ逗子マリーナ
www.riviera.co.jp/marina/sales/



YouTube



YouTube

TEL: 0467-23-2440